

## 平成 27 年度第 4 回契約監視委員会議事概要

1. 日 時：平成 28 年 2 月 18 日（木） 14：00～16：30
2. 場 所：学術総合センター 1 階 特別会議室 101
3. 出席者：〔委 員〕 吉田委員長、荒瀬委員、桑原委員、須永委員、宮本委員  
〔事務局〕 前田事務局長、大堀施設課長、佐野財務課課長補佐、  
綱島施設課課長補佐、阿部財務企画係長、白澤計画係長  
富田財務企画係員

### 4. 議事概要：

○前回の議事要旨について、事務局より資料 1 に基づいて説明を行い、了承された。  
資料 2 及び 3 については、前回と変更がないため説明を省略した。

### ○審議事項

- (1) 独立行政法人国立高等専門学校機構における平成 26 年度及び平成 27 年度契約の状況について
- ・個別審査対象案件について、資料 4 及び 5 に基づき、案件ごとに審議を行った。審議概要は以下のとおりである。

### 注釈

各委員 吉田：吉田委員長、荒瀬：荒瀬委員

桑原：桑原委員、須永：須永委員、宮本：宮本委員

事務局 局長：前田事務局長、財：財務課、施：施設課

各高専 都：都城高専、釧：釧路高専、徳：徳山高専、新：新居浜高専

苫：苫小牧高専、舞：舞鶴高専、鳥：鳥羽商船高専、福：福島高専

岐：岐阜高専

### 5-1 都城工業高専会議室設置及び総務課他改修工事（都城高専）

施：予定価格を積算する際に、見積書を参考にした割合はどの程度か。

都：建築 55%程度、電気設備 30%、機械設備 60%程度、全体通して 50%程度を参考にしており、残りは建設物価の単価や公共工事の単価表により積算しています。

施：見積書はメーカーから徴収したものか、業者から徴収したものか。

都：メーカーから徴収しています。

施：見積書の査定については機構本部から通知の査定率どおり積算しているか。

都：通知の査定率に従い査定している。

施：入札金額比較表（資料 5-1 152 ページ）の内 I. 建築工事 3. 内装改修について積算比 1.5 倍となっているが、どのように積算していたか。

都：建設物価版等に記載の材料については、建設物価版等の単価を採用し、記載のない

材料については見積書を参考にして積算した。

宮本：説明資料の入札経緯に5者が入札すると見込んでいたと記載があるが、具体的にどのように判断し5者が入札すると見込んだのか。

都：これまで年度当初の入札であれば7-8者の応札があるので、入札時期を考慮して5者と見込みをたてた。

宮本：工事の内容というよりは発注時期によるものか。

都：発注時期によるものとする。

#### 5-2-1 オープンキャンパス貸切バス（釧路高専）

財：契約締結日が極めて連続しているが、たまたまか。

釧：参加者の人数が確定後、ルートをルート毎に決める。例えば北見ルートの場合、北見駅から釧路駅までの往復が原則であるが、参加者を途中拾いながらの運行とするため、どこにバスを止めるかというところまで計画に入れる必要があり、確定したルートから順に見積依頼をしたためばらばらになってしまった。

財：ばらけているには連続した日付となっているが。

釧：計画ができあがったものから契約しなければ、バスの空きがなくなってしまうため。

財：受け入れてもらえる業者は実際の契約相手先であるJTB北海道釧路支店のみしかなかったのか。

釧：JTBは釧路市内で一番大きな業者であり、これまでの取引の実績もあったため、どういう状況であるかまず話を聞き、市内にはあと2者ほど業者はいるので話を聞き、最終的にJTBと契約をした。

財：複数の旅行代理店に確認はしているということか。

釧：確認はしています。

局長：具体的にどこですか。

釧：日本旅行とトップツアーです。

局長：平成26年度から旅行代理店にバスがおさえられたとのことですが、平成25年度までは。

釧：平成25年度まではそれぞれの地区のバス会社と個別に契約していた。

局長：平成27年度はどうであるか。

釧：平成27年度は個別に対応していただいている。平成26年度のみこのような契約を締結している。

財：今後もし同じ状況がでた場合は、同様の契約形態をとらなければならないという判断か。

釧：原則一般競争ということがありますので、過去の事例も踏まえ、バスの確認については、早い段階（年度当初）で確認を行い、一般競争も視野に入れて対応する。

財：これだけの近い日付で同じ業者から見積もりを分けて、契約を分けてしまうこと自

体が極めて不自然であるため、このような状況であったとしても契約は総額として契約し、きちんとした随意契約の理由書を作成する必要があると考えます。

#### 5-2-2 借上バス配車（徳山高専）

財：なぜ契約を2つに分けているのか。

徳：行き先が2つの県であり、同じ会場は同じ業者に依頼したかった。また、バスの確保が難しい場合、金額次第であるが別々のバス会社になってもよいかと考えによる。

財：釧路高専の説明のように発地の業者と契約しているのであれば説明つくが、発地は同じであるにも関わらず、分けているのか。

徳：発地のバス会社と契約をするものだと考えています。

財：今回の場合、学校発ですよ。

徳：行き先が違います。

財：なぜ分ける必要があるか、理解できない。

徳：全部をまとめて契約しようと考えたが、見積依頼をすると辞退される可能性があったので分けた。

財：事前に調査を行い、確保できないとの回答があったのか。

徳：1ヶ月前に業者と打合せをしている。ぎりぎりとれるかどうかと営業担当者より回答があった。

財：もしバス確保できなかった場合は、どう対処する。

徳：更に契約を細分化するか、もしくは別業者を探す。

財：2契約とも7月3日同日付となっているが、この日に初めてこの会社で全部足りるということが分かったのか。

徳：契約日の話ですが、6月上旬に見積書の提出をいただいて、6月10日に最初の契約を行いました。その後変更契約を7月3日に行っている。

財：6月10日の時点ではバスが確保できる見込みがたっていたということか。

財：変更契約はどのような内容であるか。

徳：参加人数変更による使用バスの台数および大型から中型への変更等を行っている。

財：かなり早い時期に確保できているのではないか。

徳：6月10日の見積書提出時点においては提出業者全てがバスを確保しており、早めに結果を通知することにより、バス会社の負担を軽減している。

財：参加者が決まる前でも行き先や日程等が決まり次第、契約することが可能であったと思われるため、一般競争入札を行うことができるのではないか。

徳：もう少し早い時期に動くことができれば、入札も考えました。

財：動けなかったのか。経緯がわからない。

徳：担当の学生係から大型バス、中型バスそれぞれ何台必要であるかといった連絡が遅かったため十分な検討をできなかった。次回からは担当係に対し早めに連絡をい

ただけるよう伝え、対応していきたい。

### 5-2-3 バス借上（新居浜高専）

財：同じ契約相手先で同日付の契約が複数あるが、別契約にしているのはなぜか。

新：高知行き、阿南行きの契約であるが、高知行きについては西日本観光とイートラベル2者による見積もり合わせを行っており、結果西日本観光と契約している。

財：そもそもなぜ分けて見積もりを依頼しているのか。

新：阿南行きについてもイートラベルに見積依頼をしたが、断られた。

財：同日付で別々の契約であることは不自然と思われる。

財：学生担当からの連絡は遅いのか。

新：学生担当というよりは、四国地区の体育大会の日程を決める行程が遅く、競争できる期間を設けることができない。直前でなければ分からない。

財：体育大会の日程はどこが決めているのか。

新：毎年12月体育主任会議で議題にあがり、確定するのは5月頃。

財：5月頃に決まるスケジュールについて改善はできないのか。

新：財務担当には分からない。

一般競争したい気持ちはあるが、勝敗や天候により運行日に変動があるため、難しい。

財：なぜ随意契約であれば運行日の変動に対応できて、一般競争であれば対応が難しいのか。仕様書に盛り込むことによって一般競争でも対応できるのではないか。

新：確かにそのとおりです。

### ○3案件をまとめて

吉田：学内での情報伝達の問題やスケジュールの問題等について、調整を図っていただき、随意契約から一般競争へ移行できるよう検討していただきたい。

### 5-3-1 全道高専女子フォーラム2014旅行代金（苫小牧高専）

### 5-3-2 「高専女子フォーラム」に係る「宿泊代」「バス代」「食事代」（釧路高専）

局長：北海道が繁忙期は理解するが、開催イベントを計画するにあたって宿泊等をJTBに丸投げしているのではないか。

釧：そうではない。動きだすのが遅かったため、宿泊施設やバスについては前年度からある程度押さえられており、オープンキャンパスの事例もあったため、旅行代理店に依頼すればなんとかなると思い依頼した。

局長：丸投げするのが悪いといっているのではない。数百人規模の宿泊施設を確保するのであれば、旅行代理店に一括して依頼すればよかったのではないか。それを各高専に分割しているのではないかと思われる。

局長：釧路から札幌であれば借り上げバスでの移動は理解できるが、なぜ苫小牧－札幌間をバス借り上げたのか。バスの契約金額、参加人数をみると一人当たり1万円程度かかっているが、JRであれば往復3～4千円で済んだのではないか。札幌市内の定期バスもあるかと思われる。

苫：バス代だけ考慮すると確かにその通りです。今後改善する点としてはバスについては別に契約をして、金額を押さえるといったことも考慮しなければならなかったと思うが、当時は頭になかった。

局長：高専の学生であれば、札幌までバスで行かなければならない必然性がないと考えられるので、経済性や効率性も考慮し、ホテルは旅行代理店、移動手段は別契約ということであれば理解できる。

財：宿泊先がばらばらであるためことを理由に契約を別々にするということは理由にならないのではないか。旅行代理店は一緒でも構わないのではないか。

財：予算を見ると、本部の学務課を通じて配分した戦略経費であるかと思われるが、かなり早い段階において計画されていたと思うので、もう少し早めの準備をしていただく必要があるかと考える。

釧：フォーラムの会場が北海道大学であり、フォーラム後の4校集まったの食事会を別の会場にて行った。市内での移動も必要であった。

財：今後もこのようなイベントは北海道4高専において色々行われると思うので、まとめて契約いただきますようお願いいたします。

吉田：当番校がまとめて契約するという事は可能であったのか。

釧：可能であったかと思えます。

#### 5-4-1 固体NMR 試料管（苫小牧高専）

#### 5-4-2 固体ローターキャップ（苫小牧高専）

財：受託研究費による調達であるが、申請の段階で購入する物品の計画はなかったのか。

苫：大まかにはあったが、当初の計画では消耗品80～90万円、その他は旅費という程度の計画。研究を進めるうちに計画が変更された。

財：後から契約している消耗品は研究に本当に必要であったのか。理由書には不足ぎみであったためと記載されており、直接研究に使うかどうか分からないが在庫として購入しておいたと読めるが、受託研究費の直接経費の執行として妥当であったか。

苫：最終的には平成26年度の研究期間中に使用したと教員に確認済み。

局：追加の発注はなかったのか。

苫：追加の発注はなかった。

局：年間どれくらい使用しているのか。

苫：キャップは分からないが、ローターは1試料当たり半年で1式を消耗するとのこと。対象となる試料が複数あったため、15式を必要としたとのことであった。

財：いずれにしても15式がこの金額であるということがわかっているのであれば、消耗品費の当初の計上が足りない。計画と実施内容の乖離が大きい。購入依頼の日付が違うというのは理解できるが、そもそも計画性がないと評価されてしまう。そもそもJSTから指摘はなかったのか。

苦：特になかった。今後は計画をもって行うよう努める。また、3月に開催予定の教員向けの説明会においても、事例を出して説明を行うこととする。

#### 5-5 舞鶴工業高等専門学校教務事務システム 一式（舞鶴高専）

財：今回の調達には教務事務システムの内、専攻科部分の学科改組のみを対象としているのか。

舞：だけではない。

財：本科学生も含まれるのか。教務事務システム全体の購入の契約と考えてよろしいか。

舞：その通りである。

財：予定価格の積算を見ると、SEの単価を採用しており、現行導入しているインフォグラムのシステムにカスタマイズを加えたもののように思われるが。

舞：元々は株式会社インフォグラムにて構築したものであり、実態はカスタマイズを行っている。

財：そもそもOSのバージョンアップ等に対応する保守契約を結んでいないのか。

舞：保守対象に含んでいなかった。

財：そもそもなぜ、随意契約でカスタマイズの契約としなかったのか。一から新しいシステムを構築することと、現行あるシステムをカスタマイズすることについて費用を考えると、明らかに後者のほうが安いことは見積を徴収したり市場調査を行うとすぐにわかると思います。

どうして一から構築するような仕様書となっているのか。

舞：随意契約ではなく一般競争により複数者が対応できるようにするため。

財：教務事務システムを導入する場合、多額の費用がかかることはご存じであると思うが、もし株式会社インフォグラムが参加しなかったら、（システムを一から構築することになり）金額は高くなると思うが予算は確保していたのか。

舞：予算は確保していなかった。

財：そもそもインフォグラムがシステムを改修するために、これぐらいの金額でできるという前提があったから、予算を確保したうえで調達していると思われるので、この仕様書は不自然に思われる。競争性を高めることは重要であるが、一般競争によることとした場合、結果もそうになっているが、前システムからのデータを引き継ぐ必要があり、インフォグラムしか参加できない仕様書となっているのではないか。

実際、説明書を取りにきた業者はいましたか。

舞：インフォグラムを含めて3者いました。

財：(入札に参加しなかった) 残り 2 者の辞退理由は伺っていますか。

舞：一者は納期が間に合わないという理由です。もう一者は調査を行っていません。

財：納期が間に合わないというのは、恐らくシステムを一から構築するため間に合わないということであると思う。既存システムカスタマイズ以外では対応できなかったと考えられる。従来機構本部は、なるべく一般競争でお願いしているところではあるが、仕様書を見て競争性がないため、クレームをつけられる可能性がある。

財：観点変わるが、機構全体で統一することは知っているか。

舞：知っているが、即座に対応しなければならなかったため、契約をした。

財：合理性を判断していただく必要がある。

#### 5-6 クラウドによる獣害対策情報一元管理システム基盤の構築 (鳥羽商船高専)

財：先行するシステムはあるのか。

鳥：存在しない。一元管理するシステム (ソフトウェア開発) を担っている。三重県農業研究所、地元の企業等と装置開発等の共同研究を進めていた。

財：「まる三重ホカクン」(捕獲装置) は今回のシステム構築業者とは別の業者であるか。

鳥：はい、別の業者です。この事業が採択される前に I S E (地元の業者) と三重県農業研究所と鳥羽商船高専にて研究開発したものです。

財：仕様書を取りにきた業者数は。

鳥：仕様書を取りにきた業者は 2 者です。

財：入札に参加しなかった理由は伺っているか。

鳥：他の仕事があり、そちらに力を入れるため入札に参加しないとのこと。

財：I S E が販売を始めた「まる三重ホカクン」について、販売とあるが高専に利益はあるのか。

鳥：利益の一部を寄附金として受け入れている。特許取得に向けて動いている。

財：残念ながら 1 者になってしまったが、なるべく多くの業者にお声かけしていただき引き続き多くの業者が参加してもらえようをお願いしたい。

#### 5-7-1 平成 26 年 11 月分～平成 27 年 3 月分オンライン英会話学習業務委託 (福島高専)

#### 5-7-2 平成 26 年 11 月分～平成 27 年 3 月分オンライン英会話学習業務委託 (第 2 期) (福島高専)

財：今年度も行っているか。毎年度行う事業なのか。

福：今年度も随意契約で 9 月から実施している。学校の方針・教育目標及び校長スローガンに国際化の推進が挙げられているため、今後も継続して実施していきたい。

財：平成 26 年度開始の事業か。

福：平成 26 年度から実施している事業である。

財：この時期に校長裁量経費の2回目は決定されるのか。

福：第1回配分時の予算の残額等を考慮して配分を決定している。

財：第1回配分の契約がなぜ契約時期が遅いのか。

福：9月中旬の配分決定後、改めて実施方法、実施業者等について確認、検討を行った結果1ヶ月をかかったため。

財：業者選定はパンフレットにて確認しただけか、それとも業者に聞き取りをして通常メニューや別途対応してもらえるかなどの確認を行っているのか。

福：学生に見てもらうため、移動時間がかかるのは大変かと思ったのでオンラインでの対応が可能であることを条件に、市内で業者を探し、株式会社NOVAと契約を行った。

財：オンラインは家でもできるのか。

福：家ではできない。平成26年度は学校に限定して実施している。

財：学校限定ということはオンラインにこだわる必要はあったのか。オンラインとはビデオオンデマンドみたいにならなくても見られるものか。

福：受講生が受講するときに前もって日時を指定して予約し、時間になったら実施する。

財：対面授業は学生が出向いて実施するのか、それとも講師が学校にきてくれるのか。

福：学生が駅前に出向いて実施している。

財：オンライン、対面授業どちらも条件として求める必要であったのか。相反する条件のように思われるがいかがか。

福：オンラインは移動時間の短縮という面で重要と考えたが、対面でネイティブの人たちとお話することコミュニケーションをとることも重要と考え、どちらも条件として仕様を作成した。

財：対面授業に×がついている業者は、どういうことか。

福：いわき市内になく、福島まで行かなくてはいけないため。

局長：平成27年度も2つに分けて契約しているのか。

福：今年度は9月からの実施であり、学習意欲の高い学生を募集し後期の7カ月間1つの契約で行っている。

局長：対面授業も求めているのか。

福：オンラインと対面授業を求めている。

局長：教職員4名も参加となっているが、事務職員も参加しているのか。

福：事務職員も参加している。

今年度はNOVAとは別で非常勤講師に依頼し、英語を勉強する機会を設けている。

財：今年度の契約金額はいくらですか。

福：95万円です。

財：今後消費税率の変更等により、100万円を超える可能性もあるが、その場合はど

のように対応を考えるか。

福：これまでの実績を加味し NOVA に依頼するのか、一般競争をするのかは今後の課題かと思います。

財：外部から見ると、これだけ近い日付で、この金額（2 契約合わせて 100 万円超え）を 2 つの契約に分けていると、疑念を抱かれるので、予算配分や執行について計画的に行っていただきたい。

#### 5-8 岐阜工業高専第一体育館等改修電気設備工事（岐阜高専）

施：既に終わってしまったことはしょうがないので、今後の対応策を検討する意味を含め 3 点確認したい。

まず 1 点目、単純なミスであるのか、それとも何か組織的な問題があるのか。

岐：事務的なミスである。4 月、8 月に担当者が変更になっており、また、本案件は今年 6 件目の案件であり、予算的な制約があった。予定価格より 500 万円程度下がった。基準価格以下の者が 2 者おり、初めての経験であった。

施：次に 2 点目、この案件までに他に何件か総合評価方式での契約があったが、今回はたまたま価格と評価点により順位が逆転したから、問題になっているのか。

岐：そういうことではないが、この案件までは問題無く行っておりました。

施：最後 3 点目、今後の対応策について、どう考えている。

岐：4 人体制でチェックしているが、パソコンの画面上で入札結果見ており、時間的な制約がある。

今後は紙ベースに落とし込み、読み上げる等を行うよう検討している。

局長：ノートパソコンで確認しているとのことであるが、契約締結するための原義書に画面の写し等は添付していないのか。

岐：画面の写しは添付していないが、エクセル表を添付して確認している。

荒瀬：見落とし理由は、4 人全員で同じミスをしているのか。

岐：最低基準価格を下回ることが初めてであったため、最低価格調査に頭が向いていた。

局長：4 人の役職は。

岐阜：総務課長。総務課課長補佐、契約係長、施設係長の 4 名です。

荒瀬：よく聞く話であるが、誰かが気づいてもものがないにくいという環境ではなかったか。

岐：そういうことではない。誰も気づいていなかった。

吉田：テクノフジタとは他に取引はあるのか。

岐：1 位 2 位共に過去実績がある。

局長：危機管理の面から質問します。本部施設課からの指摘を受けた後、どのような対応をとりましたか。

岐：間違いをすぐに確認し、文科省が開催した契約手続きの講習会（H28.1.29 開催）

にも参加した。

局長：校長や事務部長へは報告しましたか。

岐：連絡を受けた当日（1月13日）に報告しました。

岐阜高専退席後

須永：業者からの不服がなかったから、それで良いというのは高専機構としての説明責任としていかなものか。

本来契約相手先となるべきであった業者に対しては、きちんと説明するという  
ことを考えるべきではないか。

荒瀬：今後同様の契約があった場合、前回と違うではないかという指摘がくる可能性も  
あるし、隠していたということになれば問題が大きくなることもある。

局長：該当職員に対し注意喚起（口頭注意）等の処分を行い、業者に説明するというこ  
ととしたい。